

東大阪病院 外科 新聞

11月

発行元 東大阪病院

<http://www.yurin.or.jp/>

【お問い合わせ】
地域医療連携室 直通
06-6932-0369



ホットラインを開設

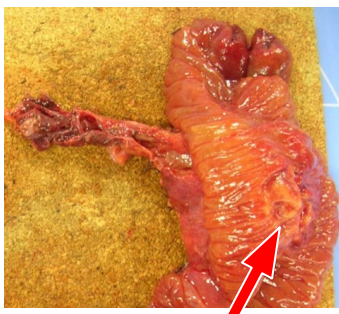
近隣の先生方と緊密な連携を保つため

なぜ外科ホットラインなのか？

当院外科が新体制でスタートしてから約半年が経ちました。この半年間で近隣の先生方から数多くのご紹介をいただけたことに感謝申し上げます。また、当院の地域医療連携室職員が近隣の先生方を訪ねた時も、お忙しい診療の合間にも関わらず、ご対応いただいていることに、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。そのような機会に先生方から「急な患者さんへの対応や紹介する時の判断時に外科医師と直接話ができるとう嬉しい。」というお声を頂戴しておりました。このお声にできる限り応えさせていただきますためにホットラインを開設することに致しました。



十二指腸乳頭部から膵鉤部の腫瘍



SSPPD摘出標本腫瘍



東大阪病院
外科部長
よこいがわ のりお
横井川 規巨

外科ホットラインのご案内

06-6932-0369

- ・月曜～金曜 9:00～17:30
- ・土曜 9:00～15:00
- ・月曜～金曜 17:30～19:30は必要に応じて外科医師と緊急連絡が可能です
- ・地域医療連携室職員が電話交換します

月曜日から金曜日の午前9時から午後5時半及び土曜日の午前9時から午後3時は外科医師が直接電話をお受けします。また、月曜日から金曜日の午後5時半から午後7時半も必要時には外科医師と緊急連絡が取れる態勢を整えています。急な患者さんへの対応、ご紹介などご遠慮なくお電話下さい。何かありましたら、まずは地域医療連携室までお問合せ下さい。

胃がんとは？

今回は胃がんについて話します。胃がんは胃の粘膜上皮から発生する悪性の腫瘍です。原因は食生活などの環境因子が大きく関わっていると考えられています。塩分の多い食事や喫煙、過度の飲酒などは胃がんの発生リスクを高めると言われています。みなさんも最近よく耳にするヘリコバクター・ピロリ菌の感染は胃の粘膜の萎縮をきたし、胃がんの発生を高める人がわかってきました。この菌に感染している人は除菌治療が必要で除菌により胃がんの発生リスクを低下させることができます。胃がんに限らずどのがんにも当てはまることですが、がんの初期には症状はほとんどありません。腹痛、上腹部の不快感、嘔気、嘔吐、胸やけ、腹部膨満感、食欲不振、体重減少などの自覚症状を認めた場合には、がんが進行している可能性が高いです。先日、天皇陛下下の冠動脈バイパス手術を執刀された順天堂大学心臓血管外科の天野篤教授の名言で「病氣は火事と一緒に、ボヤの段階で手を打つのが大事。症状が悪化してからでは、合併症の発生率も死亡率も高くなる。」という言葉があります。したがって胃がんを早期に見出すためには内視鏡検査が有効です。当院では経鼻内視鏡検査を実施しております。経鼻内視鏡は直径約5ミリの細い内視鏡を鼻から挿入するため、内視鏡がのどを通る時の嘔気や違和感が少なく苦痛がほとんどありません。検査時間も10分ほどで終了します。内視鏡検査により早期にがんが発見できれば約90%は完治できます。しかし発見が遅れて見つかった時にはがんがすでに進行している場合は生存率も低下します。地域のみなさん、胃がんを早期に見出し早期に治療を行い、これらの人生を大いに楽しむための症状のある方はもちろん特に症状がない方も内視鏡検査をお勧めします。



胃全摘出術(Roux-en Y) 摘出標本腫瘍